

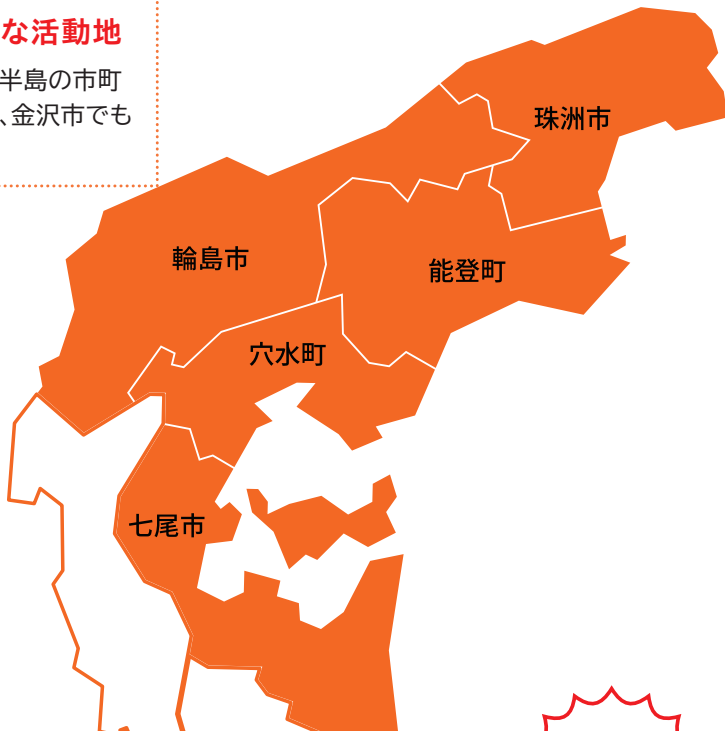


2024年
能登半島地震
緊急子ども支援

震災から半年間の活動報告

おもな活動地

能登半島の市町
の他、金沢市でも
活動



2024年1月1日に 最大震度7を観測した 能登半島地震から 半年が経ちました

セーブ・ザ・チルドレンは、発災直後から石川県で被災した子どもたちやその家族、子ども関連施設への支援を続けています。

子ども支援のニーズを調査

現地に入り子ども支援のニーズ調査を開始
(七尾市・穴水町・能登町・珠洲市・輪島市)



1月1日
地震発生

情報発信

「子どものための心理的応急処置(PFA)」などの情報を発信



緊急子ども用キットなどの提供

避難所などで緊急子ども用キット、ぬいぐるみ、衛生用品、衣料品などを提供



「こどもひろば」実施



子どもたちが安心・安全に過ごせる空間「こどもひろば」を避難所などで実施

1月

「子どものためのPFA」研修

石川県内の子育て支援関係者に「子どものためのPFA」の研修を実施



備品支援

小中学校、学童保育、幼稚園・保育所などに暖房器具やプリンター、学校給食の再開に必要な食器などの備品支援を実施



2月

給食補食支援

学校給食の再開に伴い、牛乳やチーズ、ヨーグルト、ミックスナッツなど小中学校や幼稚園・保育所への補食支援を実施



専門的人材サポート

子どもの保育を支える専門的 personnel サポートを実施

珠洲市で他団体と連携して放課後子ども教室、春休み一日保育をサポート



輪島市で屋外での「子どもの遊び場」を実施

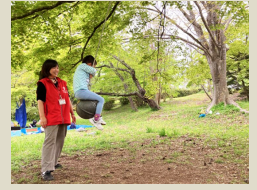


このレポートでは、2024年1月1日の地震発生から6月30日までの活動を報告しています。各活動の詳細や、現在の活動については、P11の能登半島地震子ども支援の情報サイトをご覧ください。

3月

屋外での「子どもの遊び場」実施

子どもたちが屋外でのびのびと遊ぶことができる「子どもの遊び場」を実施



七尾市、穴水町、能登町、珠洲市の小中学校・保育園・こども園での給食の補食を支援



4月

能登町で屋外での「子どもの遊び場」を実施



5月



6月

能登町で小中学校の共同調理場用の備品を支援



数字で見る

能登半島地震 緊急支援活動

2024年1月～2024年6月10日時点の実績

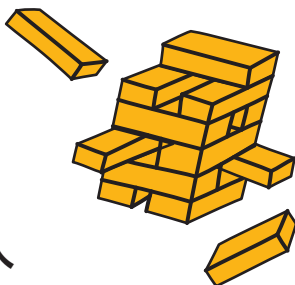
緊急子ども用キットなどの提供

のべ
793
人



「こどもひろば」実施

19 回
のべ
200 人



屋外での「子どもの遊び場」実施

9 回
のべ
368 人



備品支援

32 ケ所
3,084 人



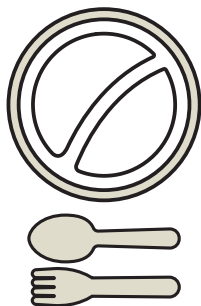
給食補食支援

33 ケ所
2,615 人
のべ30,934食



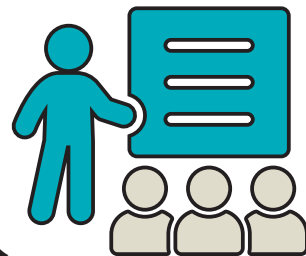
給食簡易食器(使い捨て食器)支援

11 ケ所
826 人



「子どものためのPFA」研修

4 回
のべ
339 人



初動支援

1月4日から被災地域に入り、 子どもたちに必要な支援の調査を開始

2月始めまでに石川県七尾市、穴水町、能登町、珠洲市、輪島市、金沢市を回り、緊急子ども用キットや衛生用品、おもちゃなどの物資配布やこどもひろばの実施、「子どものための心理的応急処置(PFA)」の講座などを行いました。

1. 子どものニーズ調査

セーブ・ザ・チルドレンは、避難所や行政、子ども支援施設などを回り、子どもたちの状況や必要な支援を聞き取りました。災害後、子どもに主眼を置いた支援は行きわたっていないこともある中、子どもたちの声をよく聴き、ニーズを知ることは重要です。断水が続く中で衛生用品や、避難所で遊ぶおもちゃ、衣類などのニーズが高いことがわかりました。

2. 緊急子ども用キットなどの配布

避難所に避難している子どもたちを中心に、1月4日から緊急子ども用キット、ぬいぐるみなどを配布しました。緊急子ども用キットはマスクや消毒液などの衛生用品、おりがみなどのあそび道具、防犯用ホイッスル、情報提供用のパンフレットを持ち運びできるようにナップサックに詰めたセーブ・ザ・チルドレンのオリジナルのキットです。

配布数と配布場所

【配布数】496個

【配布場所】七尾市、穴水町、能登町、珠洲市、輪島市、金沢市

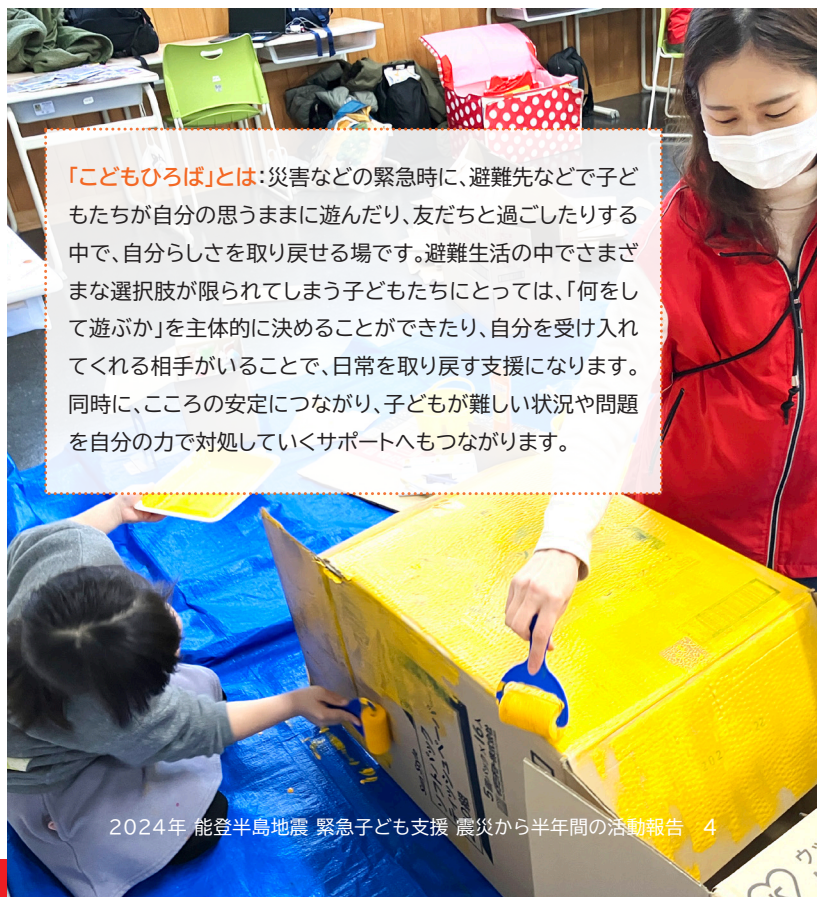
3. こどもひろば

1月7日から災害時の遊び場支援で連携している一般社団法人プレーワーカーズとともに、緊急時に子どもたちが安心・安全に過ごすことができる空間「こどもひろば」を実施しました。子どもたちは、ボールや風船などを使って身体を思い切り動かす運動や、ボードゲーム、粘土、レゴブロック、画用紙や段ボールを使った工作、オセロ、ミサガ作りなど、さまざまな遊びをしながら思い思いの時間を過ごしました。避難所生活が長期化する中、気兼ねなく遊んだり自由に過ごしたりできる「こどもひろば」は、子どもたちにとって、見守る大人にとっても大切な空間になりました。

実施回数と実施場所

【実施回数】19回

【実施場所】七尾市、穴水町、珠洲市、輪島市、金沢市



「こどもひろば」とは、災害などの緊急時に、避難先などで子どもたちが自分の思うままに遊んだり、友だちと過ごしたりする中で、自分らしさを取り戻せる場です。避難生活の中でさまざまな選択肢が限られてしまう子どもたちにとっては、「何をして遊ぶか」を主体的に決めることができたり、自分を受け入れてくれる相手がいることで、日常を取り戻す支援になります。同時に、こころの安定につながり、子どもが難しい状況や問題を自分の力で対処していくサポートへもつながります。

子どもの安心・安全を守る

保育所・幼稚園・学童保育などの支援

能登半島地震のような大きな災害のあとに、災害前から地域で子どもたちを支えていた施設や機能が再開することは、子どもたちの日常性の回復につながります。保育所や放課後児童クラブ(学童保育)の運営再開のために、必要な備品提供や専門的人材のサポートを実施しました。

場所と内容

七尾市(幼保園、こども園、学童保育): 衛生用品、使い捨て食器、食料品、飲料品、防災ヘルメット、保存水など
能登町(小中学校、こども関連施設など): 室内遊び用ゲーム、防犯ブザー
珠洲市(保育園): アレルギー対応の菓子
輪島市(子ども関連施設): 室内遊び用ゲーム



放課後子ども教室などの再開をサポート

子どもの放課後や長期休暇を支える支援員も被災し、珠洲市では、一部の放課後子ども教室、長期休暇中の一日保育が難しい状況でした。セーブ・ザ・チルドレンは、以前からつながりのある団体と連携して、放課後子ども教室、春休み一日保育の運営のために、子どもを支える専門的人材サポートを実施しました。

場所と参加人数

【場所】珠洲市

放課後子ども教室(3月18日~22日): のべ20人

連携団体: NPO法人くらしき放課後児童クラブ支援センター

春休み一日保育(3月23日~4月4日): のべ264人

連携団体: 一般財団法人児童健全育成推進財団



学童保育支援員の声

今回のサポートを通じて、子どもたちは少し安心感をもってくれたのかなと思います。4日間の関りでは、子どもたちの不安なことや気になっていることを直接聞く機会はありませんでした。そうした状況ではなかったのかもしれませんが、でもこの図書室に来てくれた子どもたちの笑顔は本物だったのだと思います。子どもたちにとっても、大人にとっても災害後の子どもたちの居場所づくりは重要だと感じました。(倉敷市から支援に入った学童保育支援員)

屋外での「子どもの遊び場」実施

被災した地域では、さまざまな理由で子どもたちが外で遊べる場所や機会が少なくなっています。子どもたちが思い切り外で遊べる機会を作るため、災害時の遊び場支援で連携している一般社団法人プレーワーカーズや地域で活動に協力してくれる関係者とともに、輪島市と能登町の公園で「子どもの遊び場」を実施しました。木にロープをつるして作ったブランコや端材工作、風船やシャボン玉遊びは子どもたちに大人気。楽しそうな声が公園にあふれていました。

実施回数 *2024年5月末時点

輪島市:6回

参加人数:のべ153人

能登町:3回

参加人数:のべ215人



誰もができる、緊急下の子どもの心のケア

子どものための心理的応急処置(PFA)

セーブ・ザ・チルドレンは、1月から子どものためのPFAの情報提供とともに、石川県内の子ども支援関係者などに対し、「子どものためのPFA」の理解を深める研修を実施しています。

地震や事故などの危機的な出来事に直面した子どもたちは、普段とは異なる反応や行動を示すことがあります。「子どものためのPFA」は、そのような子どもたちのことを傷つけずに対応するための方法です。

セーブ・ザ・チルドレンは1月と2月に、災害派遣精神医療チーム(DPAT)や日本赤十字社と連携し、石川県や七尾市などが主催する、学童保育支援員を対象にした研修や講座を実施しました。

講師は、準備・見る・聴く・つなぐというPFAの行動原則に沿って、年齢や認知発達段階ごとに子どもの反応や行動、子どもに対応するうえでのポイントを参加者に伝えました。また、地震の影響が長期化する中、支援員自身がリラックスするための簡単なセルフケアの方法も紹介しました。6月下旬には珠洲市で、子どもセンターを利用する保護者向けに「子どものためのPFA」の要素を含む座談会を実施しました。



「子どものためのPFA」パンフレット
QRコードからダウンロードできます

研修参加者の声

「動画を見ながら、子どもに対応するときのポイントを考えるのが分かりやすかった」

「他の支援者にも内容を共有したい」

子どもにとって「遊び」とは

避難所でなぜ遊びが必要なのか

遊

びやまなびの場を突然奪われた子どもたちは、大きなストレスを抱えていることがあります。「こどもひろば」は、避難先で子どもたちが普段していたような遊びやまなび、友だちと過ごすことができる安心・安全な空間であり、より日常に近い生活を取り戻すための手助けとなります。

たびたび「避難所でなぜ遊びが必要なのか」、と聞かれることがあります。遊びは、子どもの知的、社会的、情緒的、身体的な発達に不可欠で、災害だからと言って子どもの発達を

止めることはできません。また、避難先で、子どもが安全な空間で安心して日常に近い遊びや活動ができることにより、子どもが困難や逆境にうまく適応する力(レジリエンス)を支え、強化し、こころと体が健康でいられることに役立つと言われていきます。加えて、「こどもひろば」が毎日同じ時間に実施されることで、避難所でも生活リズムを維持することができ、学校などの再開時も災害前の生活リズムに戻りやすくなります。

「こどもひろば」では、子どもたちがポロっと災害の体験を話したり、

遊びの中で表現することもあります。そして、子どもたちが自然に感情を表現したり、共有していくことで、少しずつ災害のことを自分のなかで整理したり、理解していき、こころの安定につながると言われています。子どもたちも大人と同じように、困難や逆境を乗り越える力を持っています。災害の影響を受けた子どもたちが自らの力を発揮し、少しずつ困難を乗り越えていけるよう、セーブ・ザ・チルドレンはさまざまな関係者と連携しながら支援を続けていきます。



子どもの学びの環境整備のために

給食補食支援

被災した地域では、学校再開後、徐々に簡易給食の提供などが始まりました。しかし、断水が続いていることに加えて、給食用の食材を準備することや調理場が被災し被災前と同じようなメニューを作ることが難しい地域もありました。栄養バランスのとれた食事を子どもたちに提供したいという声を受け、セーブ・ザ・チルドレンは各地域のニーズを確認しながら小中学校や幼稚園・保育所への補食支援を実施しました。

場所と内容

【場所】穴水町、能登町、珠洲市、七尾市
 【内容】ヨーグルト、牛乳、野菜ジュース、チーズ、おさかなソーセージ、ドーナツ、フルーツゼリー、乳酸菌飲料、ミルクプリン、ゆで卵、バナナ、クロワッサン、麦茶、パウンドケーキ、ナッツなど



備品支援

学校では、地震によって暖房器具やプリンター、給食室の設備などが破損するなど、授業や給食の再開に向けてさまざまな困難がありました。セーブ・ザ・チルドレンは、それぞれの市町のニーズを聴き取り、学校再開に必要な暖房器具やプリンター、学校給食の再開に必要な冷蔵庫などの備品を支援しました。

場所と内容

七尾市(小中学校): ヒーター
 能登町(小中学校): 冷凍庫、回転釜、食器戸棚など
 給食用設備、エアコン
 輪島市(小中学校): プリンター、給食簡易食器



子どもや保護者からの声

石川県七尾市内 避難所で「こどもひろば」

子どもたちの声

「今まで避難所でみんなで遊ぶことが
なかったので楽しかった」
「久しぶりに会えていない友だちにも
会えてうれしかった」
「またみんなと遊びたい」

石川県穴水町内 避難所で「こどもひろば」

子どもたちの声

「めっちゃ楽しかった」「毎日遊びたい」

保護者の声

「子どもが1日中ゲームやテレビ
ばかりだったので、
こうした場があることがありがたい」
「最近寝つきが悪くなっていたので
今日はすっきり眠れると思う」

能登町の公園で 子どもの遊び場

保護者の声

「子どもは前日から楽しみにしていた。
当日の朝も早く行く、絶対に4時まで遊
ぶ!と張り切っていた」
「震災前から遊ぶ場所が少ないが、
ますますなくなった。
本当にこういう場が
あって助かる」

石川県輪島市内避難所で 「こどもひろば」

子どもたちの声

「今日はとても楽しい日!」
「段ボールに絵を塗って完成できた」
「将棋やボードゲームが楽しかった」

保護者の声

「こどもひろばの間、罹災証明の手続き
ができて助かった」

輪島市や珠洲市、能登町で 物品支援

子どもたちの声

ゾウのぬいぐるみを受け取ると、
「この子気に入った!」と
抱きしめていました。

保護者の声

「家が全壊したので支援物資は何でも
うれしい、本当に助かる」

能登町で 「緊急子ども用キット」や 衛生用品を支援

子どもたちの声

水なしで使えるシャンプーを見て「これ
ほしかった!使いたい」

保護者の声

「避難所ではずっとゲームをしているの
で、(折り紙やルービックキューブなど)
このようなあそび道具は助かる」

七尾市の保育施設に ヒーターやマットを支援

「寒いと子どもたちの気持ちも縮んでし
まう。暖まるのでとても助かっている」
「卒園式の練習をされていて、子どもたち
が寒くないように練習できている」

飲料やおやつも支援

「すぐに支援をいただいたこと
で、前向きに保育を再開しよう
と思えた」

石川県七尾市 子どものための心理的応急処置 (PFA)の講座を実施

参加した支援員の声

「大人がすべてやってあげるのではな
く、子どもが自分の力で問題を解決す
ることをサポートしたい」
「他の支援員にも学んだことを
伝えたい」

珠洲市で一日保育への 専門的人材のサポート

子ども支援員の声

子どもたちが体を動かして遊びたいという気持ちを強く感じ、走らない「だるまさんの1日」、歩いて行う「色鬼」など走らなくても体を動かすことのできる遊びを取り入れたところ、楽しかったようで、「また、やりたい!」と子どもからリクエストがありました。

穴水町、能登町、珠洲市の 学校や保育園で補食支援を実施

子どもたちの声

おさかなソーセージは人気があり、「好きだから最後までとっておく」「おさかなソーセージ大好き!」「美味しい!」

先生の声

「保存が効き、食べられない子どもたちが持ち帰れるのでありがたい」

七尾市の 放課後児童クラブ(学童保育)に 防災用品支援

学童保育支援員たちの声

「希望してからとにかく早く届いて安心感につながった」
「昨日も地震があって揺れたので、来ていた子どもに使った」

スタッフの声



「自分に合ったサイズの服が欲しい」。避難所で出会った中学生の声です。確かに、支援物資の中に乳幼児や大人用の衣類はありましたが、小中高生世代に合うような衣類や下着は多くありませんでした。緊急時にも、子どもの声に耳を傾けることの重要性を再認識した瞬間です。災害後は子どもたちの声が聴かれにくくなりますが、子どもたちが自分らしくいられるよう、今後もその声を聴きながら活動を進めていきます。



発災直後の1月から現地に入り活動する中、いまだ倒壊した建物が残ってはいるものの、徐々に復旧・復興が進んできています。仮設住宅の建設や引っ越しも進む一方で、今までと違った環境やこれからの生活について子どもたちもそれぞれの不安や思いがあると感じています。そうした子どもたちのモヤモヤを汲み取り、今後の活動につなげていけるよう、引き続き地域に寄り添った支援を進めていきたいと思えます。



子どもたちや保護者、地域の声に
耳を傾けながら、日常を取り戻すことが
できるよう活動を展開していきます。

セーブ・ザ・チルドレンは能登半島地震の影響を受けた子どもたちや家族、
子どもにかかわる関係者の声を聴きながら、子どもの権利を守る視点から
支援計画を策定して活動を続けています。

能登半島地震
子ども支援の
情報ページ



最新の情報については、メルマガ・ウェブサイト・SNSなどで発信していきます。

セーブ・ザ・チルドレンは、
子どもの権利のパイオニアとして
100年以上の歴史を持つ、
子ども支援専門の国際組織です。

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界
120ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・
非営利の国際組織です。子どもの権利が実
現された世界を目指し、1919年から活動
しています。



創設者 エグランタイン・ジェブ



Save the Children

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F
TEL: 03-6859-0070(平日9:30~18:00)
www.savechildren.or.jp

2024年7月

2024年 能登半島地震 緊急子ども支援 震災から半年間の活動報告 11